

令和元年6月26日

## 平成30年度の主な事業報告

社会福祉法人 陽だまりの会

### 社会福祉事業

#### 事業所名：就労継続支援B型 ハウス陽だまり

1. 事業実施日数 年間260日

2. 事業内容

お弁当作り・お菓子作り等「食」を通しての作業及びプログラム提供に力を入れ、就労に向けての経験やスキルが身につくよう支援を行った。

また施設外就労の新規請負を行うことで作業の選択肢を増やし、作業への参加意欲及び工賃アップを図った。

利用者が自発的に参加できるよう声掛け重視の支援を行った。

その人らしく自立した日常生活や社会生活が営めるようにするとともに、協調性を養うため様々な研修やレクリエーション企画を行った。

各自の持っている力が發揮できる関係や環境づくりを重視した。

#### 【作業について】

- ・弁当作りの作業提供の見直しを行い、調理や盛り付けに参加する事により各自の役割や達成感・意欲向上につながった。また施設外就労の売店作業では、レジ打ち・接客などの様々な作業に従事する事で、コミュニケーション能力の向上・自信ややりがい、毎日の通所につながった。

- ・内職作業では、単発的な新規作業やタイトな納期にも対応するやる気がみられた。

- ・配食サービスの販路拡大を行ったことで、工賃アップ及び利用者の意欲向上につながった。

- ・日々の声掛けを通じ、体調面の把握に努め生活リズムが整うよう支援した。

配食サービス(昼食のお弁当作り、特別食)

内職作業(ボールペン組立・シリッパの袋詰め等)

施設外就労：医療センターの売店、生活支援センターの清掃、新横浜駅前の清掃、地域のバザー参加/缶・ビン・ペットボトル仕分け 等

#### 【プログラム】

- ・様々なプログラムや研修を通して、日常の過ごし方や社会生活においてのマナー・ルールの理解が出来るよう情報や環境の提供を行った。

- ・音楽活動、お菓子教室、革細工等のプログラムを通じ、自発性や協調性を養い役割や達成感等が得られるようプログラム提供を行った。

革細工製作/お菓子教室/音楽研修/カラオケ/グループミーティング/創作活動/その他研修 等

#### 【研修】

- ・平成30年4月4日：岸根公園花見（施設外マナー研修）

- ・平成30年4月25日：横浜ズーラシア（ズーラシアバックヤード研修）

- ・平成30年6月27日：障害者スポーツ文化センター（スポーツ研修会）

- ・平成30年7月11日：清川リバーランド（施設外社会参加マナー研修）

- ・平成30年7月21日：港北TOKYU S.C. 109シネマズ（映画鑑賞）

- ・平成30年11月14日：富士サファリパーク（施設外社会参加マナー研修）

- ・平成31年2月27日：大倉山梅林公園（施設外研修）

#### 【レクリエーション】

- ・平成30年6月20日：崎陽軒工場（崎陽軒工場見学）

- ・平成30年8月15日：すたみな太郎（バイキング外食レク）

- ・平成30年9月9日：障害者スポーツ文化センター＆ポールボックス（音楽祭）

- ・平成30年11月21日：日吉病院（日吉病院音楽祭）

- ・平成30年12月26日：三代目 綱元魚鮮水産（クリスマス会&忘年会）

#### 【バザー】

- ・平成30年4月15日：カーボン山 さくらまつり
- ・平成30年5月13日：毘沙門まつり
- ・平成30年5月20日：らくらく市
- ・平成30年10月13日：菊名ウォーターまつり
- ・平成30年10月14日：大豆戸わくわくまつり
- ・平成30年10月20日：ふるさとふれあいまつり
- ・平成30年11月3日：YMCAバザー
- ・平成30年11月17日：岸根公園感謝DAY
- ・平成31年3月10日：三ツ沢公園感謝DAY

**【避難・消防訓練】**

- ・平成30年8月14日：防災訓練／ハウス陽だまりにて避難の仕方、その他水害や火災時にどのような備品の用意、避難が必要かを学ぶ。消火器を実際に扱い、使い方を学んだ。
- ・平成30年3月20日：避難訓練／ハウス陽だまり・菊名小学校／地震・火災の災害発生を想定した避難訓練を実施。  
災害に応じた避難方法の確認。地域防災拠点への移動経路、施設の備蓄品・消火器の位置を確認した。
- ・平成30年3月20日：防犯訓練／実際に不審者が来た場合の対応練習。実際の場合を想定した実践。
- ・職員業務の役割を決める事で、各自の責任感が生まれた。
- ・自分の抱えている業務だけではなく、社内全体の業務との意識を高めた。

**【作業工賃実績】**

平成29年度	通所総数	5, 485人	年間作業総時間数	約5, 270時間
	工賃総支払額	1, 563, 051円		
平成30年度	通所総数	5, 745人	年間作業総時間数	約7, 220時間
	工賃総支払額	4, 006, 554円		

**【今後の課題】**

- ・対応が難しいケース事例  
長時間の傾聴支援を希望する利用者に対して、職員体制やプログラム・作業等の都合で希望どおりの支援を提供することが難しい。
- ・加算廃止予定に伴う経営難に対応するため、最低限の職員数で対応できるよう職員の業務効率を高めていく必要がある。

週間プログラム	曜日	午 前	午 後
	(日)	・地域バザー参加・配食サービス	・地域バザー参加・配食サービス
月		・朝のミーティング(体調報告) ・売店・室内清掃 ・生活支援センター清掃 ・配食サービス・昼食作り ・内職作業・駅前清掃(月/2回)	・革細工(月2回)・内職作業 ・配食下準備・売店 ・グループミーティング(月2回)
火		・朝のミーティング(体調報告) ・内職作業・売店・配食サービス ・昼食作り	・厨房清掃・音楽活動 ・内職作業・売店
水		・朝のミーティング(体調報告) ・室内清掃・売店・缶ビン清掃 ・内職作業・配食サービス・昼食作り	・お菓子教室(月/2回) ・余暇活動(自己表現) ・カラオケ・売店
木		・朝のミーティング(体調報告) ・内職作業・配食サービス・昼食作り ・生活支援センター清掃・売店	・お菓子教室・内職作業・売店 ・音楽活動
金		・朝のミーティング(体調報告) ・内職作業・配食サービス・昼食作り ・区役所販売・売店	・厨房清掃・パソコン教室 ・創作活動・内職作業・売店
(土)		・地域バザー参加・配食サービス	・地域バザー参加・配食サービス

事業所名：横浜市地域活動支援センター事業精神障害者地域作業所型 ハウス陽なた

1. 年間開所日数 239日

2. 事業内容

- ・憩いを中心とした居場所作り、仲間作りの場を提供し、メンバー同士がコミュニケーションを取れるようなレクリエーションやイベントを開催した。メンバーからは「やりがいを持てる」「周囲に表情が穏やかになつたねと言われた」「通所が楽しみ」という意見があがった。

- ・生活訓練として室内やトイレの清掃、洗い物や洗濯等を行い、自立に向けた支援を行った。
- ・生産活動の機会提供として、陽だまり焼の作成、店頭や区役所、老人ホームでの販売を行った。また自主製品として水彩画ポストカード作りを行い、製品作成の楽しさを体験。自分の携わった製品が売れる事の喜びや自信に繋げた。
- ・音楽プログラムに力を入れ、メンバーが協力して合唱、演奏していく事で1つの物をみんなで創り上げていく事を経験した。自主企画音楽祭の開催や、イベント、フォーラムで演奏を行い、事業所内だけでなく、外部での活動を行っていく事でメンバーの経験や自信に繋げるとともに、地域交流や連携の機会、社会資源に繋がっていない当事者の方が社会資源の存在を知り、利用に繋がるきっかけとなれるよう活動した。
- ・音楽で自己表現、協調性、コミュニケーションがとれるように音楽療法士を講師として招き音楽療法のプログラムを行った。音楽療法を楽しみにしているメンバーが多く、プログラムへの参加は平成29年度延べ208人に対して平成30年度は延べ271人前年比130.3%参加率となった。
- ・栄養の偏りなどによる生活習慣の改善のために港北区役所から保健師を派遣していただき食生活について栄養指導を受けた。普段食べている商品の塩分や糖分の含有量を知る機会となり、過剰に摂取しないように心掛けるきっかけとなった。
- ・地域の方への地域精神保健福祉を理解していただく機会と工賃アップの為に地域のバザーに参加した。工賃は平成29年度446千円に対し、平成30年度は640千円までアップした。バザーの参加者は平成29年度対比140%以上となった。メンバーからは「気分転換になる」「楽しみ」という感想が多い。

#### 【課題と対策】

- ① 職員体制3名で本室と分室2ヶ所の運営を行っていくには職員の連携が不可欠。増加した利用者に手厚い支援を提供するためにも職員間の連携方法や業務効率を考えなければならない。
- ② 経済活動への参画や利用者の工賃獲得等のため、自主製品の開発や販路の開拓、委託業務の請負などを検討する必要がある。

#### 【バザー、外部販売実績】

○H30. 5.13(日) 靴沙門天バザー	○H30. 10.14(日) 大豆戸わくわくまつり
○H30. 5.20(日) らくらく市	○H30. 10.20(土) ふるさと港北ふれあいまつり
○H30. 9.21(金) 横浜アリーナ販売	○H30. 11. 3(土祝) YMCA バザー
○H30. 10.13(土) 菊名ウォータープラザ祭り	○H30. 11.17(土) 岸根公園感謝DAY
○H30. 10.13(土) 横浜市総合保健医療センター文化祭	○H31. 3.10(日) 三ツ沢公園感謝DAY

#### 【防災訓練実績】

○H30. 9.21(金) 避難訓練(水害)、消火訓練	○H31. 3.27(水) 不審者侵入を想定した防犯訓練
○H31. 2.21(木) 避難訓練(地震)、消火訓練	

#### 【レクリエーション実績】

○H30. 7.11(水) 清川リバーランドバス旅行	○H30. 12.26(水) クリスマス会
○H30. 11.14(水) 富士サファリパークバス旅行	○H31. 1.31(水) すたみな太郎バイキングレク
○H30. 12.18(火) 区作連交流会	

#### 【主催イベント、外部演奏実績】

○H30. 9. 9(日) 陽だまり芸術祭【主催イベント】	
○H31. 3.31(日) 春の陽だまり音楽祭【主催イベント】	

#### 【健康講座】

○H30. 12.21(金) 健康講座 食生活について	
-----------------------------	--

#### 【地域交流】

○H31. 2.25(月) 見学会(まめどくれっしゅ保育園)	
○H31. 3. 4(月) まめどくれっしゅ保育園交流会	

	午前	午後
月	・ミーティング・陽だまり焼・菓子袋詰め ・内職・買い出し	・陽だまり焼・内職・ギター(月2回) ・移動売店・ミーティング
火	・ミーティング・室内掃除・陽だまり焼 ・内職	・陽だまり焼・カラオケ・内職 ・童謡の会販売(第3)・ミーティング
水	・ミーティング・陽だまり焼・内職	・陽だまり焼・音楽療法・内職 ・ミーティング
木	・ミーティング・陽だまり焼・内職	・陽だまり焼・水彩画教室(月2回) ・詩吟(月1回)・内職・ミーティング
金	・ミーティング・室内掃除・陽だまり焼 ・内職・ニコニコ販売	・陽だまり焼・内職・音楽活動 ・移動売店(第2)・ミーティング

## 事業所名：グループホーム ハイム木もれ陽

基本運営：365日運営 夜間支援体制 ハイム木もれ陽／あり（III） ハイム陽気／あり（I）  
利用定員数20名（ハイム木もれ陽8名 サテライト1 1名／ハイム陽気10名 サテライト2 1名）  
現入居者19名（年度内新規入居者0名、退去者1名）

### 【直接支援実績】

- ① 利用者一人ひとりの希望や状況をふまえ、食事提供、洗濯・整理整頓・清掃の支援、関係機関との連携、金銭管理支援、対人関係調整、相談援助、服薬管理支援、通院同行、買物同行等を実施した。
- ② 各利用者の個別支援計画を作成し、利用者毎に必要な個別支援を提供した。計画は最低でも4か月に1度、モニタリング（見直し）を行った。
- ③ 利用者の生活的自立に向けて、施設内共有部分の清掃や夕食準備・ゴミ出し・日用品買い出し等を当番制でおこなった。
- ④ 月1回の利用者ミーティングを通じて、利用者からの意見を取り入れ、新たなルールの設定、既存ルールの再確認を実施。事前に相談があった内容を元に、利用者ミーティングでの提案等を促し、自主性・自立性・協調性を身に付ける支援を行った。
- ⑤ 利用者の希望により、レクリエーション活動を行った。
- ⑥ 自立支援を念頭に、服薬管理や居室の衛生管理について都度、利用者の状況をアセスメントし、段階的に職員の介入を減らして利用者の自己管理の範囲を拡大し、生活能力の向上につなげた。
- ⑦ 糖尿病により食事制限がある利用者の食事については、医師・管理栄養士と連携し、メニューや味付けに配慮を行った。また嚥下困難・食事中の咳き込み等がある利用者に対しては必要に応じて、食材にとろみをつける・食事中の見守り・声掛け等の支援を行った。
- ⑧ サテライト施設の利用者に対し、関係機関と連携し、一人暮らしに向けての準備支援を行い、単身生活への移行を実現した。
- ⑨ 経済状況に変化が生じた利用者に対し、それぞれの変化に応じて、生活保護の受給開始のサポート、あるいは受給停止に伴う金銭管理の支援の見直し、あんしんセンターと身元引受人との連携等を行った。また金銭管理支援が必要な利用者をあんしんセンター利用につなげた。

### 【間接支援実績】

- ⑩ 職員ミーティングの活用、また職員連絡ノートや業務指示フォルダを作成し、利用者の状態・支援内容の共有、支援方法や業務の進め方の統一を行った。また職員間で意見交換することで、業務実施方法の確認・改善等を図った。ハイム陽気では服薬に関する引継ぎ専用のノートを作成し、利用者の薬に関する情報を参照しやすくした。
- ⑪ 利用者支援に資する為、研修へと参加し、職員の支援スキルの向上を図った。
- ⑫ 横浜市精神障害者地域生活支援連合会・港北区自立支援協議会の部会へと出席し、利用者支援に資する情報を収集すると同時に、事例検討への事例の提供等を行うことで、地域福祉の向上に努めた。

### 避難・消防訓練報告

#### 【防災・避難訓練（ハイム木もれ陽）】

目的：災害時の避難や火災時の避難方法及びその予防として、避難経路や災害備蓄品の確認、初期消火、通報等の訓練を行う。

日付：平成30年8月5日（日曜日）

時間：13:30～15:00

場所：ハイム木もれ陽共有スペース→菊名小学校

参加：利用者8名、職員3名

#### 【防災・避難訓練（ハイム陽気）】

目的：災害時の避難や火災時の避難方法及びその予防として、避難経路や災害備蓄品の確認、初期消火、通報等の訓練を行う。

日付：平成30年8月5日（日曜日）

時間：13:30～15:00

場所：ハイム陽気共有スペース→大豆戸小学校

参加：利用者8名、職員3名

#### 【防災・避難訓練（ハイム木もれ陽）】

目的：災害時の避難や火災時の避難方法及びその予防として、避難経路や災害備蓄品の確認、初期消火、通報等の訓練を行う。また震災時避難場所での地域防災訓練に参加する。

日付：平成30年10月28日（日曜日）

時間：8：00～11：30

場所：ハイム木もれ陽共有スペース→大豆戸小学校

参加：利用者7名、職員1名

【防災・避難訓練（ハイム陽気）】

目的：災害時の避難や火災時の避難方法及びその予防として、避難経路や災害備蓄品の確認、初期消火、通報等の訓練を行う。

日付：平成30年12月31日（月曜日）

時間：11：00～12：15

場所：ハイム陽気共有スペース→大豆戸小学校

参加：利用者6名、職員3名

【防犯・防災・避難訓練（ハイム木もれ陽）】

目的：事業所に不審者が侵入したと想定しての防犯訓練を行う。また災害時の避難や火災時の避難方法及びその予防として、避難経路や災害備蓄品の確認、初期消火、通報等の訓練を行う。

日付：平成31年3月21日（木曜日）

時間：13：00～16：00

場所：ハイム木もれ陽共有スペース→大豆戸小学校

参加：利用者7名、職員6名

その他の報告

【レクリエーション】

- ・平成30年4月24日 外食レク はま寿司（ハイム陽気）
- ・平成30年12月18日 外食レク バーミヤン（ハイム陽気）
- ・平成31年1月2日 すごろくレク（ハイム木もれ陽）
- ・平成31年1月12日 外食レク すたみな太郎（ハイム木もれ陽）
- ・平成31年3月10日 外食レク はま寿司（ハイム木もれ陽）

【その他】

- ・平成30年4月25日 害虫駆除施工（ハイム木もれ陽）
- ・平成30年5月25日 害虫駆除施工（ハイム陽気）
- ・平成30年6月20日 害虫駆除施工（ハイム木もれ陽）
- ・平成30年6月21日 消防用設備等点検（ハイム木もれ陽）
- ・平成30年6月21日 消防用設備等点検（ハイム陽気）
- ・平成30年7月18日 害虫駆除施工（ハイム陽気）
- ・平成30年8月20日 害虫駆除施工（ハイム木もれ陽）
- ・平成30年9月12日 害虫駆除施工（ハイム陽気）
- ・平成30年10月10日 害虫駆除施工（ハイム木もれ陽）
- ・平成30年11月7日 害虫駆除施工（ハイム陽気）
- ・平成30年12月5日 害虫駆除施工（ハイム木もれ陽）
- ・平成30年12月10日 消防用設備等点検（ハイム木もれ陽）
- ・平成30年12月10日 消防用設備等点検（ハイム陽気）
- ・平成31年1月11日 害虫駆除施工（ハイム陽気）
- ・平成31年1月30日 害虫駆除施工（ハイム木もれ陽）
- ・平成31年2月26日 害虫駆除施工（ハイム陽気）
- ・平成31年3月27日 害虫駆除施工（ハイム木もれ陽）

【課題と対策】

①利用者の体重増加傾向

⇒主な原因是間食。金銭管理支援のあんしんセンター移行による本人の自己管理の拡大、生活上のストレス等が間食に繋がっている様子。ストレスへの他の対処法の考案、運動の習慣化、関係機関の専門職に食事・運動に関する助言を依頼等で対応。またGH単独だと本人が望まない限り、介入がしづらいため、他支援機関と支援の必要性の合意形成・本人に対する健康管理の動機づけを日々行っていく。

②離職の防止

⇒過去の退職者からの聞き取りによると、他職員とのマッチング、利用者対応の悩みから離職に繋がるケースが多い。ミーティングをこまめに開催し、職員同士がお互いを知る場、職員同士で意見交換ができる場、

利用者対応の悩みを共有する場を確保する。また管理者から職員にアプローチする、管理者が職員と話す時間を持てるよう業務を見直す等で管理者に相談しやすい環境を整備する。マッチングについては話し合いや管理者の介入での解決が難しい場合、シフト調整を行う。また、入職者よりマニュアルがあると仕事がしやすいとの声があるため、マニュアルの整備を進める。

### ③防災面の強化

⇒職員不在の時間帯に災害が起きた場合、初期対応が遅れる可能性がある。その際に地域の人に助けてもらえる関係作りが必要。近隣住民への挨拶、施設周辺の公道の清掃、地域のイベントへの積極的な参加、地域防災訓練への参加を継続し、顔の見える関係性作り・いざというときに助け合える関係性作りをしていく。また、避難訓練を行う中で、一階玄関までの経路上で火災が起きた際の避難に不安があることが判明（出入口は玄関のみ、各居室にベランダがないため迂回は困難、2・3階共有部に一つだけあるバルコニーの避難はしごはかなり重量があり利用者単独での使用は困難）。消防署へと相談する。

### ④サテライト施設における外部利用者の受け入れ

⇒経営面の安定化のため、サテライト施設の利用者募集を外部に広げる。外部機関への広報活動、必要時に迅速に募集を進められる体制作りを普段より行う。募集時は希望者への密な対応、募集準備の段階よりサポートを実施する。また、多様なケースを受け入れられるよう、職員の支援や連携のスキルを高める。

## 事業所名：グループホーム ハイム陽春

基本運営：365日運営 夜間支援体制 ハイム陽春第一／あり ハイム陽春第二／なし

利用定員数 14名（ハイム陽春第一 7名 / ハイム陽春第二 7名）

現入居者 14名（年度内新規入居者 7名、退去者 6名）

### 【具体的な支援内容】

- ① グループホーム(共同生活)での生活を通して、社会生活に必要な周囲への気配りや配慮等が経験できる機会を確保した。
- ② 普通食を食べる際に「むせる」「噛めない」「飲みこめない」などの配慮として、刻み食の提供や食事の見守り・声掛け等をおこなった。
- ③ 利用者の生活習慣病予防などのために、利用者の要望等に応じて管理栄養士の指導を受け、質や量などに配慮した食事提供を行った。
- ④ 利用者のニーズに寄り添った支援を通して、主体的な生活を目指すため、年三回の個別支援計画（モニタリング）に基づき、日中支援、夜間支援、食事（朝食、夕食）提供を行った。また利用者の状況に応じて、起床支援、服薬管理、居室清掃支援、通院同行などを行った。
- ⑤ 1年以上精神科病院等に入院していて、グループホーム利用に至った利用者が、地域生活の定着を図るために、共同生活援助計画に基づき、相談援助や直接支援を行った。
- ⑥ 利用者が入院した際には定期的に病院を訪問し、利用者や主治医などと面談を行い、退院後のグループホームでの生活が円滑に行われるよう調整した。
- ⑦ 利用者の生活的自立に向けて、夕食準備の当番活動では、体調管理及び衛生面の徹底、各々のペースで活動しながら、下ごしらえや調理等の機会を確保するために、活動時間の幅を広げた。
- ⑧ 1人暮らしを希望する利用者に対して、行政、計画相談などと連携し、スムーズに1人暮らしへと移行出来る様に調整した。（平成30年度実績 5名）
- ⑨ 安定した運営に結びつけるために、利用者の退居があった場合は、法人全体で協力し合いながら、迅速に入居者募集の案内を行った。
- ⑩ 定期的に職員会議を実施し、利用者の状況等の情報共有を行った。

### 【課題】

- ① グループホームで利用者が継続して充実した地域生活を送れる一方、利用者によってはグループホームでの生活に馴染みづらい、季節的に体調を崩しやすい等で入院に至ることもあった。生活場面における環境の配慮や利用者からのSOSの察知等の対応が迅速に行えることが今後の課題と考える。
- ② 利用者募集については、入居申込み段階で、あらかじめ告知を要する利用者の重要な情報が、グループホーム入居後に告知されたケースがあった。今後は、情報収集やアセスメントを積極的且つ高い精度で行つたうえで、地域社会資源としての役割を果たしていきたい。

### 避難・消防訓練報告

#### 【防災避難訓練】

目的：災害発生時及び火災発生時並びに洪水発生時の避難対応及び初期消火を知る

日付：平成30年8月9日（木曜日）

時間：16：00～17：20

場所：ハイム陽春共有スペース1階→城郷中学校

参加：利用者11名、職員4名

#### 【防災避難訓練】

目的：鶴見川決壊時の対応方法及び災害発生時並びに火災発生時の避難対応及び初期消火を知る

日付：平成31年3月13日（水曜日）

時間：16：30～17：00

場所：ハイム陽春共有スペース1階→城郷中学校

参加：利用者8名、職員4名

#### 【職員防犯訓練】

目的：不審者侵入時の緊急対応方法の実践

日付：平成31年3月20日（水曜日）

時間：14:20～15:20

場所：ハイム陽春1階

参加：職員6名

その他の報告

#### 【レクリエーション】

・平成30年6月15日 外食レク

・平成30年12月21日 クリスマス会

#### 【その他】

・平成30年4月 2日 害虫駆除点検

・平成30年5月 9日 消防用設備点検

・平成30年6月 22日 害虫駆除点検

・平成30年8月 職員健康診断

・平成30年9月 13日 害虫駆除点検

・平成30年10月 11日 建築設備定期検査報告

・平成30年11月 8日 害虫駆除点検

・平成30年11月 9日 消防用設備点検

・年末年始 年越しそば、正月料理の提供

・平成31年1月 11日 害虫駆除点検

・平成31年2月 28日 害虫駆除点検

・平成31年3月 夜間従事者健康診断

事業所名：グループホーム ハイムあさ陽

基本運営：365日運営 夜間支援体制 ハイムあさ陽第一／あり ハイムあさ陽第二／あり

利用定員数14名（ハイムあさ陽第一 8名 /ハイムあさ陽第二 6名）

現入居者13名（年度内新規入居者4名 退去者5名）

#### 【直接的な支援内容】

- ① 運営規定・重要事項説明書・利用契約書に則り共同生活住居の提供と利用者支援等をおこなった。また年3回の個別支援計画・モニタリングをおこない、見守り・声掛け・相談援助・居室確認・病院同行・服薬管理など利用者個々に必要な支援をおこなった。
- ② 利用者それぞれの夢や目標に向けて支援をおこなった。1名が実家に戻りご家族と暮らす目標が達成でき、1名はパートナーとの結婚が実現し、3名が一人暮らしをすることが出来た。
- ③ グループホームによる一時的な金銭管理から、区社会福祉協議会の安心サービス（預り金管理）に3名移行することが出来た。

#### 【間接的な支援内容】

- ① 職員同士の連携や役割分担により、夕食の提供や服薬管理・相談援助等出来る限りの手厚い支援をおこないつつ、記録や会計などの書類が遅れないよう業務をおこなった。
- ② 事業所は地域にあることを意識し、事業所内だけでなくお神輿の神酒所やバザー等、地域のイベントに参画した。その際に地域の方々に地域精神保健福祉活動についてお話をするとともに、地域精神保健福祉の理解促進等をおこなった。

#### 【課題と対策】

① 精神疾患とその障害の理解や対応が難しく、職員の感情コントロールや利用者への声掛けなどに適切ではないと思われる場面がある。どのようにすれば精神疾患やその障害を理解し、感情をコントロールし、適切な支援が出来るようになるのかが課題となっている。

⇒サービス管理責任者や精神保健福祉士がその都度、専門的な理解の仕方や傾聴・限界設定・声掛けの仕方などを指導している。また職員のメンタルヘルスマネジメントとして職員面談等の実施や支援等に関する不満や疑問などを手書きの業務日誌のようなものに書き込めるようにしている。

② 利用者がグループホームで地域生活をすることにより、経験を積み生活スキルを身に付け一人暮らしに移行していく。それは利用者の夢や目標を達成し、福祉サービスの役割の一つをおこなっていることになるが、同時に空室による収入の減少が課題となる。グループホーム等の社会資源も増えており、新規の利用者の応募も減少している傾向にある。今後もこの事業を継続していくためには利用してもらうための対策が急務となっている。

⇒募集方法のさらなる工夫をおこなう。また横浜市外の方の受け入れを検討している。福祉サービスに結び付いていない当事者やご家族への情報提供・見学や申し込みなどのサポートも必要と考えている。

#### 避難・消防訓練報告

##### 【火災・地震・洪水避難訓練】

目的：洪水・地震発生時の避難対応及び火災発生時の対応及び初期消火を知る。

日付：平成30年7月30日（月曜日）

時間：17:00～17:45

場所：ハイムあさ陽共有スペース1階→下末吉小学校

参加：利用者13名、職員3名

##### 【火災・地震・洪水避難訓練】

目的：洪水・地震発生時の避難対応及び火災発生時の対応及び初期消火を知る。

日付：平成31年3月28日（木曜日）

時間：16:30～17:15

場所：ハイムあさ陽共有スペース→下末吉小学校

参加：利用者13名、職員3名

#### その他の報告

##### 【レクリエーション】

・平成31年3月28日 食事レク（バーミヤン北寺尾店）

##### 【その他】

・平成30年5月23日 害虫駆除

・平成30年6月27日 消防用設備等点検

・平成30年7月18日 害虫駆除

・平成30年9月12日 害虫駆除

・平成30年9月 職員健康診断

・平成30年11月7日 害虫駆除

・平成30年12月12日 消防用設備等点検

・平成31年1月9日 害虫駆除

・平成31年2月26日 害虫駆除

・平成31年3月 職員健康診断（夜間支援員）

事業所名：指定特定相談支援事業所 横浜精神保健福祉士事務所

基本運営：月・火・水・木・金 9:00～17:00

利用者数 66名 実績数 372件（サービス等利用計画（案）75件 モニタリング報告書 297件）

#### 【活動報告】

・7月から事務員として非常勤職員を1名、12月から相談支援専門員2名体制にすることにより業務効率化を図り、より多くの精神障がいの方へ支援を行う事が出来るよう取り組んだ。

・精神科病院等に入院する方や地域において生活する精神障がいの方に対して、地域移行・定着のマネジメントを含めた適切な計画相談支援等を実施するために、相談支援従事者研修の専門コース別研修を受講し、精神障害者支援体制加算対象事業所として届出を行なった。

・自立支援協議会へ参加して支援員としてのスキルアップ、地域課題の抽出等ソーシャルワーク活動へ携わった。

- ・市内に相談事業所が少ない事情もあり、他区からの依頼へも柔軟に対応した。将来的に各区の事業所が充実した際は、遠方区の利用者は地域の事業所へ引継ぎ、当事業所としては主に港北区・鶴見区を中心にサービス提供を増やしていきたいと考えている。
- ・精神科病院や区役所、訪問看護やヘルパー事業所等の関係機関へグループホームの社会資源について普及啓発を行ない、サービスを必要としている人へ情報が届くよう努めた。課題として、情報の発信に留まらず、実際の利用に繋がるような継続的な訪問活動が出来ると良かった。また、まだサービスに繋がっていない当事者やその家族からの相談に応じていくことで、サービスの卒業と同時に新規サービス利用の支援が出来るよう努めていく。

#### **公益事業**

実施していない

#### **収益事業**

実施していない